

この子らと

令和8年5月号

命輝く子ども

0歳ひよこ組



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

“5月5日は”こどもの日”



伊佐市

かつてのこどもの日には、今日のようにマンション等の集合住宅も少なく、葦(いらか)の波の上を5月の薫風に吹かれて悠々と泳いでおりました。

各家庭では、こいのぼりを眺めたり、手作りの「あくまき」や「柏餅」を食べて一日を楽しみました。



あくまき



柏餅

こいのぼり

(昭和初期)

屋根より高いこいのぼり 大きい真鯉は おとうさん 小さい緋鯉はこどもたち おもしろそうに泳いでる

こいのぼり

(大正初期)

いらか(葦)の波と雲の波 重なる波のなかぞら(中空)を たちばな(橘)かおる朝風に 高く泳ぐやこいのぼり

世界に目を向けますと、子どもの4人に一人にあたる1億8,100万人が貧困に状態にあります。その内で栄養不良や不衛生な水による下痢症等を要因として年間500万人、1日1万人強の尊い命が失われています。



「今を生きる子どもたちへ」贈る言葉

君たちに頑張ってくださいという言葉をつける資格は私にはありません。でも生きてください。必ず生きていてよかったという日が来ることを信じて。

なんで私だけ、こんなに苦しいのだろう。なんで私だけ、こんなことが起きるのだろう。なんで私だけと、何度思ったことだろう。どんなに今が辛くてもあきらめずに、生きていさえすれば、必ず光は見えるから

花明かり

朝、目が覚めると、レースのカーテンの向こうがやけに明るい。

カーテンを開けると庭のコブシ(初春に咲く)の花が満開だった。

以前亡くなった祖母が教えてくれた「花明かり」という言葉をふと思い出した。

心のアンテナの感度を少しあげるき小さな発見がとても新鮮に思えてくる。(鹿市女性)

【行く言葉が美しければ、

来る言葉も美しい(韓国、格言)

「こどもの日」とは「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに母に感謝する日」と1948年に制定されました。

こどものお祝いだけでなく、お母さんに感謝する日でもあったのです。昭和初期に作られたこいのぼりの歌にお母さんが出て来ないのには、「端午の節句」の始まりは「女性のお祭り」だったことにヒントがあるようです。

女性にとって一年の中での唯一の休みの日が「こどもの日」だったようです。